（D 提案）

（様式2）技術提案書（1/4）

No. D

外観イメージ

地域の絆を再生する
市民の縁側空間
情報発信と市民の自主的な参加を促す
保健・福祉活動のホームベース
保健福祉の多様な活動を可能にする
支援活動のフリースペース
遊びの発見や工夫の中で親子が触れ合う
緑の屋上空間
の４つの提案を柱に《健やかな家庭を築き地域の連帯が高まるよう支援する場》を実現します。

施設の外観デザインについて

□ 地域社会再生のシンボル

私達が提案するぬまづ健康福祉プラザでは施設を利用するそれぞれの人が主役であり、施設はその舞台です。それゆえ、建物の外観は施設における人々の活動そのものが外部から望め、地域社会再生のシンボルとして表現されるものとします。

- 学園通りに面して人々の交流の契機となる市民の縁側空間を設けます。縁側は建物の中の活動が外に表出し、通りを歩く人々が内部の活動に触れやすくなる空間です。建物を通りから約5mセットバックさせ、オープンカフェやストリートファニチャー、並木、花壇、大きなパーゴラ状のルーバーにより縁側空間を演出します。
- 学園通り側の壁面は透明なガラス張りとし中の活動が外から見えるようにします。内部での活動がそのまま施設の顔となります。また、外から中の様子がわかることで入りやすい施設となります。
- ２階・３階の学園通り側には縁側バルコニーを設け、市民ボランティアの管理による緑化を提案します。縁側バルコニーを市民自らの手で飾りつけることで市民参加の外観デザインとなります。

市民の縁側空間イメージ

（様式2）技術提案書（4/4）

No. D

環境・景観への配慮

□ 学園通りの都市景観の形成

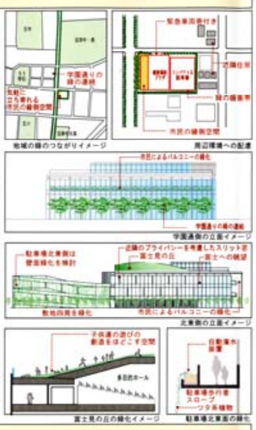
- 学園通りを緑と交流の道ととらえ、通りに面して緑豊かな市民の縁側空間を設けることで地域に緑のつながりを形成します。
- ここでは施設を利用する人それぞれが主役であると考え、建物のデザインはシンプルな形状とし、並木の緑と調和するデザインとします。
- 学園通りに面して縁側バルコニーを設け、ボランティアの管理による緑化を行うことで、市民が自らの手で飾り付ける市民参加の都市デザインをおこないます。

□ 周辺環境との調和

- 敷地四周に並木による緑の緩衝帯を設けます。
- 敷地南東側は近隣の住居に配慮し３m以上の空地を確保します。
- 緊急車両寄付きは近隣の住居と交差点から十分に離れた位置に設けます。
- 近隣住居のプライバシーに配慮し駐車場は視線の高さに目隠しを設け、保健福祉プラザ棟の南東面の開口部はスリット形状として視線の制御をおこないます。
- 駐車場北東側の壁面はツタ系植物による緑化をおこないます。（諸官庁協議要）
- 夜間の駐車場利用の騒音や光害に配慮した計画をおこないます。
- 駐車場出入口には出庫灯やミラーなどを設置し、周辺交通に対して安全な計画とします。

□ 敷地の有効活用

- 保健福祉プラザ棟は合理的な階高設定をおこない、北東側の高さを抑えることで日影制限に適合させ、できるだけ広い各階のフロアー面積を確保します。
- 駐車場棟はスキップフロア型とすることでコンパクトな平面の中に十分な駐車台数を確保します。
- 多目的ホールの屋上は富士見の丘として緑化することで広くて楽しい屋上庭園をつくります。



地域の緑のつながりイメージ　周辺環境への配慮　学園通側の立面イメージ　北東側の立面イメージ　富士見の丘の緑化イメージ　駐車場北東面の緑化

大規模災害時の施設利用

□ 災害時の各室の転用

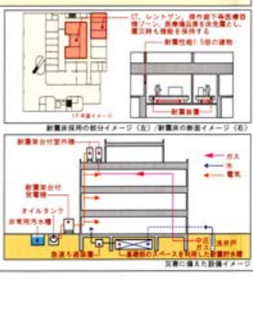
- 保健福祉プラザ棟は耐震重要度係数を1.5倍とし東海地震等の災害直後にも安全に使用できるものとします。
- 夜間救急医療センターは災害直後も機能を保持できるよう免震床を部分的に採用し医療機器や薬品等の転倒・損傷を防ぎます。
- ふれあい、相談情報ギャラリーの家具は可動とし、災害時には災害医療拠点のトリアージ空間とします。
- 多目的ホールは避難場所とし、スライディングウォールを開けることでより広いスペースが確保できます。

□ 災害医療拠点としての空調方式

- 夜間救急医療センターの処置室等は災害直後も空調可能とするため電気式ヒートポンプパッケージ方式とし、送電切断時にも発電機からの送電により運転可能とします。
- 多目的福祉施設は大震災後にも３日で供給可能な中圧ガスによるガスヒートポンプパッケージ方式とします。（低圧ガスの復旧は３週間、電気の復旧は１週間）

□ 災害に備えた設備

- 東海地震等の災害に備え、十分な受水容量の耐震貯水槽、発電機と３日分のオイルタンク、非常時の浅井戸、７日分の汚水の一時貯留槽等の設置を検討いたします。



免震床採用の部分イメージ（左）/免震床の断面イメージ（右）　災害に備えた設備イメージ

イニシャル・ランニングコストの縮減

□ 構造計画とコストの縮減

- 保健福祉プラザ棟は耐震重要度係数1.5倍を条件に鉄筋コンクリート造、鉄骨造、鉄筋鉄骨コンクリート造での建設費を比較し最も安価な鉄筋コンクリート造とします
- 医療器機ゾーン・医療備品庫等の部分的な免震床の採用は全体を免震構造とした場合に比べ建設費約6千万円の縮減となります。

□ 空調方式とコストの縮減

- 災害時の施設利用とイニシャル・ランニングコストを考慮し、ガスヒートポンプパッケージを主体とし、一部、夜間救急医療センターの処置室等を電気式ヒートポンプパッケージとする空調方式とします。ガスヒートポンプパッケージ方式を主体とすることで利用部分の個別空調が可能になり、灯油を燃料とした方式と比較した場合もイニシャル、ランニングコスト、LCC値共に縮減することが可能です。（全館の空調を電気方式とし冬季の災害時に発電機からの送電とする場合、発電機容量が大きくなりイニシャルコスト、メンテナンスコストが増大します。）

□ 駐車場計画とコストの縮減

- 駐車場棟は鉄骨造のスキップ型認定品とします。認定品とすることで加重条件、消火設備の緩和、耐火被覆、面積区画の免除等を行います。在来工法を採用した場合に比べ建設費約5千万の縮減となります。スキップフロア型とすることで、建設発生残土をスキップ部分下部の盛土として使用できコストの縮減が図れます。

□ 建設費の削減の努力

これらの建設費の削減の他、設計を通じて建設費削減の提案をおこなうことで建設費として18億円を想定します。

	提案：ガスヒートポンプパッケージ	灯油ヒートポンプパッケージ	ガスセントラル方式
イニシャル	100%	110%	110%
ランニング	100%	118%	109%
LCC15年	100%	113%	107%
排出CO_2	100%	195%	108%

＊LCC15年：15年分のイニシャルコスト+光熱費+機器メンテナンス費

省資源・省エネルギーの計画

□ 「ぬまづ省エネアクション33の着手プログラム」の実践

全12テーマ中10テーマ、全33アクション中15アクションを実践し省資源・省エネルギーな施設とします。

提案での対象アクション
- アクション 1 市の率先的な省エネの実践：ACT1
- アクション 2 公用車の省エネ化の推進：ACT2
- アクション 3 公共施設の省エネ化の推進：ACT3
- アクション 5 環境・省エネ学習の推進：ACT5
- アクション 7 省エネ税制・諸制度の活用：ACT7
- アクション 10 クリーンエネルギー自動車の導入：ACT10
- アクション 11 自然エネルギー設備の導入：ACT11
- アクション 14 事業所設備機器の省エネ化の推進：ACT14
- アクション 16 トップランナー機器の導入：ACT16
- アクション 17 グリーン購入の推進：ACT17
- アクション 19 資源の節約・リユース・リサイクルの推進：ACT19
- アクション 23 市街地緑化の推進：ACT23
- アクション 25 公共施設への自然エネルギーの導入の推進：ACT25
- アクション 33 防災機能を兼ねた省エネ設備の推進：ACT33

省資源・省エネルギーの実践

ユニバーサルデザイン

私達はユニバーサルデザインとは老若男女、幼児、障害者、外国人をはじめ誰もが豊かに生活していくためのデザインであると捉え、下記の点等を考慮しながら、また高齢者、障害者、管理者などのさまざまな意見を聞きながら基本設計、実施設計を進めて生きます。

- EVの１台はカゴ寸法2500×1800（ストレッチャーが乗れ、車椅子２台が同時乗れる寸法）。
- その他のEVのカゴ寸法は車椅子が回転可能な1500×1800。
- EVには見やすい定員オーバー表示、フットスイッチによる呼出。
- 二方向出入口EVによる段差、階差の解消、スムーズな出入り。
- 廊下の巾は最低で1800、休憩スペースの設置。
- 廊下の端には電動３輪車の回転半径2500φのスペース。
- 縁石の中止。段差はテーパーをとって2cm以下。
- 車椅子での使用を考慮したスイッチ、コンセント、ハンドルなどの高さと形状。
- 車椅子に対応した公衆電話。
- 公衆FAXの設置、聴覚障害者用電話サービス。
- 床面までのガラス等にはフットレストガードの設置。
- 触覚情報、音声情報、視覚情報、外国語情報を組合せたサイン、情報計画。
- 点滅誘導灯や非常文字情報など非常時の対応とシュミレーション。
- 集団補聴器の設置。
- 操作しやすいレバーハンドル、水栓、スイッチ
- オストメイト、ベビーベットを設置した広い多目的トイレ
- 幼児用、小児用便器の設置、補助便座の設置。
- 入口周りにはシニアカー置場、補助犬の待機用スペースの設置。
- 融雪装置付のスロープ。
- エントランス周りの放置自転車の対策。
- 死角が少なく、犯罪などの心配が不要な計画。
- 竣工後の利用実態の再点検。
- 利用者のみならず管理者のスペースのバリアフリー化。
- すべりにくい床や危険を予知できる色彩などインテリアの材料、色彩計画と一体となったバリアフリー計画。

他

また、これらのユニバーサルデザインは過剰にその設備等が目立のではなく、誰にも快適で誰もが利用したいと感じるようさりげなく全体のデザインの中にまとめます。